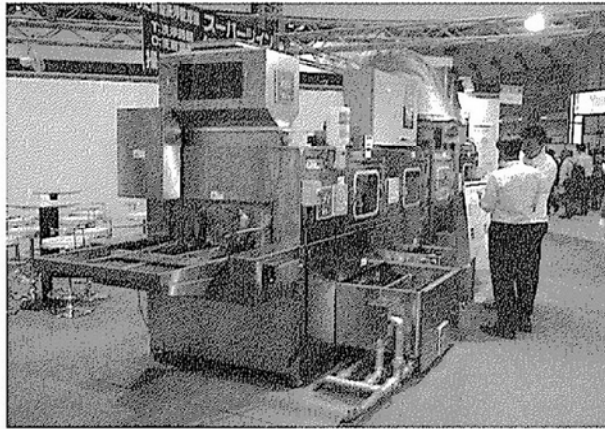


洗浄機リーディングカンパニー クレオ 美感和衛生

新型洗浄乾燥機「スーパーツイン」

「見える化」「省エネ」を追求

食品工業における洗浄機メーカーのクレオ(岡崎清和社長)は、先ごろ東京ビッグサイトで開催された「FOOMA JAPAN2013 国際食品工業展」に出展。業界トップシェアの洗浄装置などハードからソフトまで提案し、注目を集めた。生協の物流センターへの導入事例が増えている容器洗浄乾燥機と同社の総合サニテーションを取材した。



新型洗浄乾燥機「スーパーツイン」

創立以来、クレオは食品加工業の「美感和衛生」をテーマに、顧客のニーズに応える洗浄装置・洗剤などのハード、洗浄課題を解決する手法やノウハウなどのサニテーションソフトを提案。それを維持して行くためのメンテナンスシステムも充実させている。

主力の洗浄機販売の動向では、この数年二桁伸長で推移している。好調な要因についてサニテーション事業部長の渡辺光也氏は「少子高齢化など労働力不足を背景に自動化への注目が高まっている。こうした状況を追い風に、サニテーションの分野で当社がこれまで培ってきた衛生管理レベル、コスト、環境対策の技術



「FOOMA JAPAN2013 国際食品工業展」では、ハードからソフトまで総合サニテーションを提案

ノウハウが認められていると受け止めている」という。同社では「お客様の数だけ最適な洗浄があります」をキーワードに洗浄機・洗剤などを提案。洗浄におけるメンテナンスでは①コスト削減②節水や洗浄温度・時間の最適化、定期点検による機械の保全③衛生ゼミナー、デモの実施④約600種類の豊富なラインナップ⑤地域密着のサポート体制——など、総合的なソリューションをそれぞれユーザーに対して提案している。

クレオの洗浄乾燥機の基本コンセプトは、強力な洗浄力をはじめ、洗浄+乾燥の一体化によるコンパクト設計、省エネ(節水)仕様、安全対策、メンテナンス性、清掃性などコスト面や安全性、使いやすさを追求している。今回の「FOOMA JAPAN」では、「洗浄の見える化」機内の衛生維持管理「省エネ」を実現する新型内箱洗浄乾燥機や外箱洗浄装置、効率の良い洗浄が可能になった泡洗浄剤などを提案した。

速度「洗浄濃度を二元管ルカリ、弱アルカリ、中性理できるシステムを搭載。タイプや除菌剤配合、アルミ製品対応品など、目的や用途に合わせて豊富な種類を展開している。

メンテナンス体制では、専門のサービスマンによるメンテナンス網の充実を図るとともに、地域の担当者が無償の定期点検を行うことで、適正な機械運用の維持をサポート。プリメンテナンスによる早期の修理対応を行っている。

「省エネ」を追求した新型洗浄乾燥機「スーパーツイン」は、操作盤で洗浄機の「洗浄温度」「水圧」「搬送